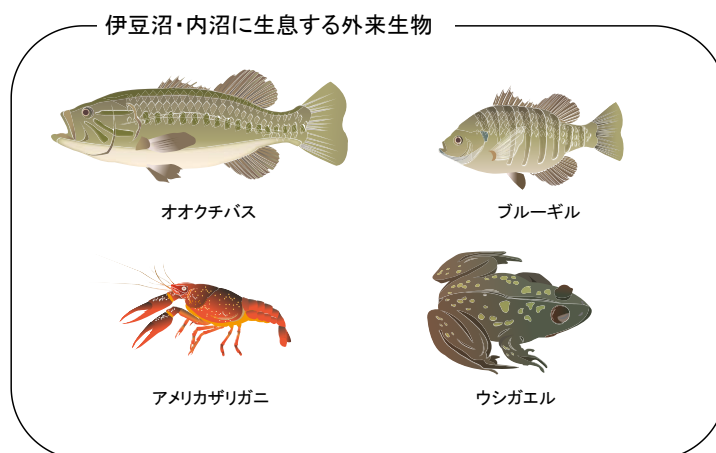


外来生物

外来生物には2つのグループがあり、海外から日本に持ち込まれた「国外外来生物」と、日本の中でもともといなかった地域に持ち込まれた「国内外来生物」がいます。今、日本では外来生物が増えて各地で問題を起こしています。水辺でよく見られるアメリカザリガニやアカミミガメ、ウシガエルもアメリカから持ち込まれた生きものです。これらの外来生物はもともと日本にいた動植物を食べてしまい、絶滅の要因になることもあります。貴重な自然が残された伊豆沼・内沼でも、オオクチバスなどの外来生物による被害が深刻化しました。そこで、伊豆沼・内沼では人工産卵床*1 や電気ショッカーボート*2 などを用いて、外来魚を駆除しています。駆除活動の結果、外来魚は大きく減少し、沼の小型魚やエビが回復し始めました。外来生物の管理は、沼の自然を守る上で重要なテーマとなっています。



*1：人工産卵床とは、オオクチバスの産卵環境を人工的に再現した装置で、バスの産卵を誘因し駆除します。

*2：電気ショッカーボートとは、発電機と電流を流すアームを搭載したボートのことで、水中へ電気を流し、気絶して浮き上がった外来魚をすくい取ります。



人工産卵床.



電気ショッカーボート.